

北海道教育大学教育学部国際地域学科の教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

(平成29年3月28日制定)

(平成30年12月25日改正)

(令和4年3月24日改正)

「北海道教育大学憲章」に示す「地域学を構成する学問領域の探究を深めるとともに、豊かな国際感覚と語学力をもち、地域を活性化できる人材を育成する」という本学の教育に関する目標に基づき策定された、本学教育学部国際地域学科の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を達成するため、以下の方針で教育課程を編成し、実施します。

【教育課程の編成の方針】

○地域協働専攻

科目区分		目的
教養科目	共通基礎科目	初年次教育を含む基礎的な内容からなり、現代社会における基礎能力、国際性の基礎としての外国語能力、基本的な人権意識、情報リテラシー、文章表現(レポート作成)及びプレゼンテーション能力を身に付けることを目的とする。
	基礎教養科目	古典的教養を含むオーソドックスな学問体系の入門的な理解を図り、高大接続教育をも意図して、人文学系、社会科学系、自然科学系の入門科目からなる科目群として、1-2年次を主たる対象として開設する。
	現代地域教養科目	現代の世界が直面している様々な課題を認識し、国際的・グローバルな視点から地域社会の課題を捉え、それらの課題解決のためには、問題を複眼的・総合的に理解することが必要であることを学ぶ科目群であり、この科目群では、本学科のコンセプトである「地域性(現場性)」「国際性(俯瞰性)」「コミュニケーション力」を身に付けることを目的とする。
専門科目	学科共通科目	教育学的視点とコミュニケーション能力、及び地域学の基本的知識を修得し、それらを活かして地域課題に主体的に取り組む姿勢を身に付けることを目的とする。
	専攻共通科目	「地域性」や「国際性」及び「自然科学的知見」を総合的な知識として身に付け、また外国語運用能力や海外体験等を通じて「国際性」を涵養するための科目を配置する。
	専攻科目	(国際協働グループ) 異なる国や民族・地域・文化・社会をつなぐ国際協働の現場において必要となる、グローバルな実践的課題解決能力を身に付けることを目的とする。  (地域政策グループ) 地方行政や「新しい公共」を担うNPO/NGO等諸集団や企業などとの多様なネットワークを構築する能力と、地域の課題解決に取り組む実行力を身に付けることを目的とする。  (地域環境科学グループ) 地域の環境問題解決のための科学・技術の役割を理解して、その方法論と技術を身につけ、さらに、新たな知識・技能を主体的に学び続けようとする態度、探究力、批判的な思考力などを身に付けることを目的とする。
	卒業研究	卒業年次において、各専攻の研究課題について学生指導教員の指導を受けて研究を行うものとする。
研究発展科目		学生の自主的な学修計画に基づき、本学科で開設される全ての授業科目の中から履修するものとする。
キャリア開発科目		学年進行に合わせて開設され、種々の学びと進路の関連を理解させることを教育上のねらいとする。

○地域教育専攻

科目区分		目的
教養科目	共通基礎科目	初年次教育を含む基礎的な内容からなり、現代社会における基礎能力、国際性の基礎としての外国語能力、基本的な人権意識、情報リテラシー、文章表現(レポート作成)及びプレゼンテーション能力を身に付けることを目的とする。
	基礎教養科目	古典的教養を含むオーソドックスな学問体系の入門的な理解を図り、高大接続教育をも意図して、人文学系、社会科学系、自然科学系の入門科目からなる科目群として、1-2年次を主たる対象として開設する。
	現代地域教養科目	現代の世界が直面している様々な課題を認識し、国際的・グローバルな視点から地域社会の課題を捉え、それらの課題解決のためには、問題を複眼的・総合的に理解することが必要であることを学ぶ科目群であり、この科目群では、本学科のコンセプトである「地域性(現場性)」「国際性(俯瞰性)」「コミュニケーション力」を身に付けることを目的とする。
専門科目	学科共通科目	教育学的視点とコミュニケーション能力、及び地域学の基本的知識を修得し、それらを活かして地域課題に主体的に取り組む姿勢を身に付けることを目的とする。
	重点科目	異文化理解科目と特別な教育的ニーズ科目から構成する。異文化理解科目は、日本と地域のグローバル化が急速に進展し、また外国人労働者の子どもたちや外国籍の子どもたちが増加しているなかで、子どもたちに国際的視野を持たせ、異文化を理解させるために必要な知識と理論並びに指導力を身に付けることを目的とする。特別な教育的ニーズ科目は、いじめや不登校等の問題で苦しんでいる特別な支援が必要な子どもに対応できる力を養うことを目的とする。
	専攻科目	教育と子どもに関する基礎的、専門的な知識及び理論を身につける科目と、演習や実践に関する科目から構成する。専攻科目の知識及び理論に関する科目と、演習及び実践に関する科目は、それぞれで学んだ内容を往還しながら教育に関する諸課題を的確に分析し、解決するための実践力を身に付けることを目的とする。
	卒業研究	卒業年次において、各専攻の研究課題について学生指導教員の指導を受けて研究を行うものとする。
研究発展科目		学生の自主的な学修計画に基づき、本学科で開設される全ての授業科目の中から履修するものとする。
キャリア開発科目		学年進行に合わせて開設され、種々の学びと進路の関連を理解させることを教育上のねらいとする。

#### 【教育課程の実施の方針】(各専攻共通)

○ 教育課程の編成の方針に基づき、各科目の授業を具体的に展開するものとし、次に掲げる取組を実施します。

・教養科目では、学生が幅広い教養を身に付けるため、学びの基礎的スキルや人文・社会・自然の領域に関する基礎的知識を修得できる教育を実施します。あわせて、グローバル化する世界とそれに対応する地域について領域横断的な学びを展開することにより、現代の世界が直面している課題を認識し、それらの課題を複眼的・総合的に理解できるような教育を実施します。

・専門科目では、学生が国際的視野をもって地域社会の課題に主体的に取り組む態度や課題解決に必要なスキルを身に付けるため、理論科目と演習・実践科目との内容的な往還を意識した教育課程を実施するとともに、PBL(Project Based Learning, Problem Based Learning)に代表されるアクティブ・ラーニング等の手法を駆使した教育を展開します。また、生涯学習の理解と実践に必要な知識とコミュニケーションスキルを涵養します。

・順序性のある体系的な教育課程をカリキュラムマップ・カリキュラムツリー等で明示し、学生の主体的な学びを入学時から支援します。

・各科目の授業計画(事前・事後の学習を含む。)や成績評価(評価方法、評価基準等)、関連科目等を明記した「シラバス」を作成し、学生に対して、履修登録前に明示することで、学生の主体的な学びを支援します。

#### 【学修成果の評価の方針】(各専攻共通)

○ 成績評価は、「北海道教育大学の成績の評価方法及び履修登録単位数の上限並びに修学指導等に関する取扱要項」による全学統一の取扱いに基づいて客観性・厳格性を確保します。成績評価は、講義、実験、実習、演習、実技等の授業形態に応じて、定期試験、課題レポート、発表及び討論等、適切な評価方法及び評価基準により、学修の成果を評価し、単位を与えるものとします。

#### 附 記

この方針は、令4年4月1日から施行する。